

私に思ふ厚真町の宝物は、町の豊かな自然と町民の皆さんの真心です。
私は以前、苫小牧に住んでいましたが、家の事情で厚真に引っ越して来ました。その時に最初に思ったのは、風の音、鳥の鳴き声、穏やかな空気、のどかな田園風景が目に入り、すごく静かで心が癒される場所だと思いました。初めて「空気がおいしい」という意味もわかったよくな気がします。
この豊かな自然は、他の町にはないここだけの宝物だと思います。

藤田 典くん (本郷)
ふじた・つかさ 苫小牧市出身。厚真高校3年生。野球部に所属し1番センターで活躍。高校生活の思い出は、春の公式大会で勝利したこと。



『豊かな自然』が大好き

『SEA(海)』ライフ



村上 朋子さん (上厚真)
むらかみ・ともこ 江別市出身。海外暮らしを経て2年前に移住。現在は、着物リメイク工房とご主人の巧さんがサーフショップを営んでいる。

んだ宝探しを思い出す。めずらしい貝殻を拾ってきては加工して飾り物を作ったり、お店の窓際にディスプレイ。
浜厚真の、火力発電所から立ち上る煙に反射した夕焼けは、幻想的でさえある。
春になれば残雪とともに樽前山がそびえ立ち、海の景色は一変する。
四季折々の表情を見せてくれる厚真の海にすっかり魅了された私は、ここで暮らせる事に感謝せずにはいられません。

ます。

また、私が部活動でゴミ拾いをしてっていると、町の人たちが「頑張ってるね」と声を掛けてくださったり、大会が終わった時には「惜しかったね」、「いい試合だったね」などと励ましてくださった。町民の皆さんの真心と優しさが、とてもうれしかったです。

豊かな自然と、町民の皆さんの真心があつてこそ出来る、おいしい農産物も厚真町の宝物だと思います。

私に思ふ厚真町の宝物は、町の豊かな自然と町民の皆さんの真心です。
私は以前、苫小牧に住んでいましたが、家の事情で厚真に引っ越して来ました。その時に最初に思ったのは、風の音、鳥の鳴き声、穏やかな空気、のどかな田園風景が目に入り、すごく静かで心が癒される場所だと思いました。初めて「空気がおいしい」という意味もわかったよくな気がします。
この豊かな自然は、他の町にはないここだけの宝物だと思います。

「町制50周年記念特集」 あつまの宝物



このまちにはキラリと光る「地域資源=宝物」がいっぱいあるはず...
皆さんでまちの宝物を考えてみませんか?

厚真町

Atsuma Town

私が厚真町で暮らすようになって7年になりますが、その間にたくさんの人たちとの出会いがありました。

いっしょに汗を流すサークルの仲間、悩みや喜びを分かち合えるママ友、私たち家族を温かく見守ってくださる町内会、地域の方々、職場の同僚や諸先輩方、かわいい子どもたち…。数えあげるとキリがありませんが、どの人、どの場面にも必ず素敵な笑顔があり、そのみんなといつも繋がっている感じがするんです。だから、日々の暮らし

厚真の宝物といえば、やっぱり「米」ではないでしょうか？小さい子どもから大人まで、誰でも1日1回は必ずといっていいほど食べるはず。

例年、春に種まきをして秋に収穫、半年以上の時間をかけてお米は出来ず。

私たち家族も、農家の人たちが苦労して作っているお米を、毎日おいしく食べています。

どんな農作物でもそうだと思いますが、作っている人たちは暑い日も寒い日も、頑張って作業しているので、食べる方とし

保育園に通う息子と一緒に歩く通勤路に一本の木があります。

少し前の話ですが、5月の桜の時期のある朝、いつもの通勤路でその木に咲く花を息子と眺めて「きれいな桜の花だね」と話している、たまたま一緒に通勤していた同僚が「それ桜じゃないよ。『こぶし』だよ」と言いました。

なんとびつくり、毎朝見る桜と思いこんでいたその花は、ピンク色のこぶしの花だったので。よく見ると確かに花びらが大きい。こぶしの木は、町の木

この町に嫁いでから20年の月日が経ちました。来た頃は、結婚・子育てを通じて日々の生活を不便に感じるが多々ありましたが、その反面、田舎ならではのでしょうか。多くの親切な方が温かく迎えてくれ、海の幸、山の幸をたくさんいただきました。いつも色とりどりの旬の食材が我が家の食卓に並び、食生活は豊かだったと思います。

海の幸といえば魚介類。四季折々の季節を通して、色々な野菜やきのこ類が印象的な山の幸。厚真には、自然の恵みを享受した食材が本当にいっぱい



前川 美里さん（本郷）
まえかわ・みさと むかわ町出身。現在は、役場町民福祉課で臨時職員として勤務。04年に結婚し2児の男の子の母。趣味は野球観戦・バレー。

マチのみなさんの『笑顔』

あつまの宝物といえば やっぱり『お米』ですよ

橋場 直人さん（東和）
はしば・なおと 札幌市出身。現在は、厚真福祉会総務課で勤務。05年に結婚し、その後長男が誕生。1月に2児の父となる。趣味はゴルフ。



しがとても幸せ。

私が厚真で暮らし、ここで子育てをしていく原動力は、マチのみなさんの心からの『笑顔』です。そんな笑顔をこれからも大切にしていきたいし、私自身も毎日『笑顔』を心がけていきたいと思っています。厚真は知らない人同士でも、気さくに挨拶し合ったりしますよね。それって、とっても素敵なこと。

私は、もともとつとマチのみなさんと交流していくためにも、いろんなイベントや行事に『笑顔』で参加したいですね。

でも「ありがとう」の気持ちを込め、感謝しながら味わいたいところですよ。

昨年、世の中が高齢化しているこの時代、歴史を未来に継承していく意味でも、若い人たちがこれからも、厚真でおいしいお米を作り続けていってもらえたら嬉しいですね。

農業は本当に大変な仕事だと思いますが、「農家の皆さん頑張ってください」。

大いなる田園のマチに住んでいることに幸せを感じながら、今年の新米を、もう今から楽しみにしています。



佐藤 大輔さん（表町）
さとう・だいすけ 札幌市出身。厚真に来て11年目を迎える。現在は、役場総務課財政グループで勤務。05年に結婚し2児の父。趣味は釣り。

可憐な花を咲かせる『こぶしの木』花は何色？

『豊かな食材』は あつまの誇れる宝物です



木村 信江さん（京町）
きむら・のぶえ 追分町出身。現在、ご主人と米穀店を営む。3人の子の母。「ほしのゆめ」の米粉を使用したシフォンケーキは好評。趣味は温泉。

としてお馴染みですが、花は白色、だけかと思っていただけに、ピンク色のこぶしの花があることに、とても驚きました。この木は、京町の木村米穀店さんに隣接する遊歩道に立っています。

町の木、町の宝とも言えるこの珍しいこぶしの木ですが、残念ながらその可憐な花は来年度の5月まで見ることができません。来年度の春、また鮮やかなピンク色の花を咲かせることを楽しみにしていきましょう。ピンク色のこぶしは『ひめこぶし』、『べにこぶし』と呼ばれるそうです。

すよね。例えば代名詞ともいえるハスカップやこくわ、お米など…。それら多くの食材を通じて、この町にはこだわりを持って生産・加工している人たちがたくさんいることを知りました。あらためて考えてみても、ここは食材の宝庫だと思えます。残念ながら、ブランド化されていないものもあります。それでも、何十年も前から思いを込め作られ、守っている人たちがいます。この町で収穫される食材とそれを支えている人たちが厚真の誇れる宝です。この食文化が未来に続いてほしいです。

職業柄、これまでに転勤で管内5市町に移り住み、縁あって厚真町は2度目の勤務となりました。

このような私に「厚真の宝物は？」と聞かれたら、真っ先に「厚い真心」と答えます。最初は単なる語呂のいいキャッチフレーズだと思っていたんですが、住んでみると厚真は本当に人の心が温かいマチです。

自治会をはじめ、様々な会合で出会う人たちの明るさや穏やかさ、車ですれ違うわずかの間でも必ず笑顔であいさつをして

子供時代を厚真で過ごした母とともに訪れたのが、このマチとの出会いでした。

その日は真夏の日射しが眩しく、丘から眺めた緑の絨毯は今でも脳裏に焼きついてます。

その後、縁あってこの地の住人となり早18年…。

あらためてマチの宝物は？と聞かれると、「大っきな空と田んぼたちです」と答える。

仕事の合間に見上げる青い空やホッと眺める夕焼け。仕事に没頭しすぎて遅くなり、慌てて夕飯の材料を採りに出て見つけ



油谷 諭さん（軽舞）
あぶらや・さとる 苫小牧市出身。現在は、軽舞小学校で校長を務める。厚真に来て4年目を迎え、奥様とワンチャンの3人暮らし。趣味は釣り。

『厚い真心』こそ厚真の宝物

『大っきな空と田んぼたち』

石橋 実穂子さん（宇隆）
いしばし・みほこ 室蘭市出身。合唱サークルや農家の奥様方で構成するあつままぐらぶの代表を務めるなど行動的な主婦。趣味はミニバレー。



くれる人、知らない人でも気軽に声をかけてくれて自然に会話ができる。このような何気ない日常の生活の中でいつも感じていることです。

おそらく、このような感覚や空気がたいなもの、もしかすると私のように厚真に戻ってきた人間にしかわからないのかもしれない。

「厚い真心」は、厚真の豊かな自然の中で美味しいお米を食べて育ってきた人間だけが持つ最高の宝物です。

た一番星。

そして、その空の下には四季折々の表情を持つ田んぼが辺り一面広がっている。

「穂が実るように大きく育つて！」との思いを込められ、親に名付けられた名前は、まさにこの景色から考えられたと思うと、つくづく愛おしくもなる。

この厚真の田園風景が、50年先、100年先、そして未来永劫続いていくことを心から願っています。

さがそうよ

アツマの たからもの



編集後記

小学生の頃、社会科の授業で「マチの宝物を見つけてよう」と学習したことがあった。自分たちが直接企業に行き、インタビューをしたり、突撃レポートに入ったり、学習を通じて地域の人たちとの交流も図られ、マチの貴重な地域資源を再発見したことを思い出す。

くしくもまさに今、このマチの中で、地域資源に着目した活動が活発に行われている。農村にある資源を活かす「グリーンツーリズム」、サーフィンの名所、浜厚真地域に注目した「あたらしいなみプロジェクト」など。

近頃、町外の友人・知人に会えば「厚真のことをよく耳にする」と皆が口を揃える。こうした活動が少しずつ身を結び、厚真の知名度が向上しているのかと実感する瞬間。

今回の取材で強く感じたことは、ここ農の里あつまにはまだまだキラリと光る「地域資源」宝物がたくさんあるということ。これからもきっと、一人一人の宝物探し、さらなるマチの活性化につながっていく。